



津田左右吉物語⑤

白鳥博士のもとで研究に専念

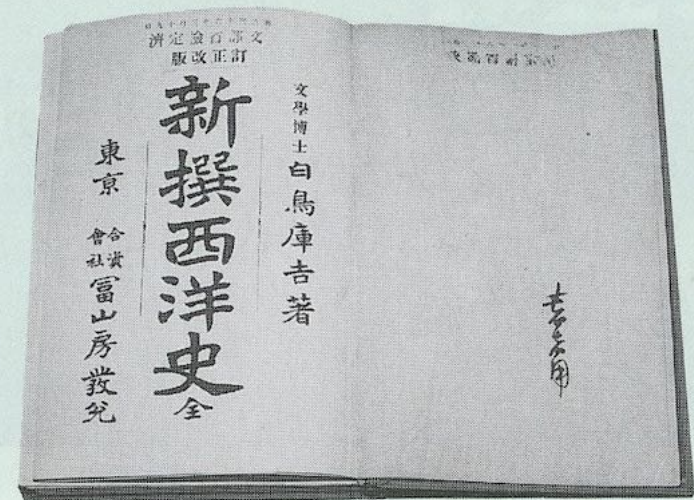
左右吉が22歳（明治28年）のとき、東京大学の白鳥庫吉博士（東洋史学者、東洋文庫の主宰者）から、特に目をかけられていました。左右吉は新婚当時（明治29年）、白鳥博士宅の隣に住み、親密な師弟関係が昭和17年白鳥博士の亡くなるまで続きました。

あるとき、同博士指導の下に、歴史教科書の執筆依頼がありました。左右吉は、その期

待にこたえ、『新撰西洋史』を完成させました。

しかし、20歳代の左右吉は自分の理想と現実のギャップに悩み、旧制中学校を5回も転勤しました。

明治41年、白鳥博士主宰の満鮮歴史地理調査室が麻布の満鉄東京支社内に設立されると、左右吉はその研究員となり、念願の歴史研究に専念することになりました。当時の研究員は、左右吉35歳・^{やうちわたる} 箭内互33歳・稲葉岩吉32歳・松井等31歳・池内宏29歳と、若手学者のそうそうたる顔ぶれで、後にいずれも「文学博士」になった人ばかりでした。



「新撰西洋史」